

2020年3月7日ベルリンかざぐるまデモ Sayonara Nukes Berlin 演説 和訳

今日、こうしてデモに集まってくださった皆さん、そして世界各地でフクシマ原発事故9周年を追悼して集まってくださった皆さん

フクシマ原発事故から9年が経ちましたが、こうして離れたヨーロッパだけでなく、日本でもますますフクシマのニュースは減りました。フクシマ事故は収束したのでしょうか？

そんなことは全くありません。今でも5万人の人たちが故郷に帰ることができずにいます。毎日、約4000人の労働者が事故を起こした線量の高い福島第一原発で、過酷な条件で収束のための作業を行っています。いわゆる「除染」作業で削られ、フレコンパックに入れられた土は、放射線廃棄物として管理されて保管されることなく、野外でそこら中に山積みされたままになっています。放射線の許容基準を20倍に引き上げることで、避難していた人たちを汚染地域に帰還する政策が進められています。これにより賠償金の支払いがなくなるからです。ALPSでフィルター処理されたもののまだトリチウムやその他の放射性核種で汚染されている水は、タンクに入れられ事故を起こした原発の敷地内に保管されていますが、その量がもう120万リットルを超えたため、日本政府はこの汚染水を海洋か、蒸気放出する案を推薦しました。

それでも、いやそれだからこそか、日本では今年オリンピックが開かれます。それも東京だけでなく福島でも開かれるのです。日本政府が、フクシマの原発事故はもう収束したと世界に見せつけるまたとないチャンスだと思っているからです。これにより、今も続くあの深刻な原発事故とその影響を過小評価し、あたかも「元通りの生活」が戻ってきているかのように世界に示すため、オリンピックを利用しようとしているのです。そして今、新たな神話を広めようとしています。「原発事故があっても大丈夫」という神話です。

日本の総理大臣安倍晋三は、嘘でオリンピックを招致しました。「the situation is under control」というものです。それでオリンピックの競技はいくつか福島で行われることになっています。聖火リレーに至っては、事故現場から20kmほどしか離れていない「ヴィレッジ」から始まることになっており、公式には「除染済」の地域を通ることになっていますが、グリーンピースの調査で、そこですでにたくさんホットスポットが見つかっています。

「復興オリンピック」だと謳っていますが、一体誰のための復興でしょうか？ ともかく9年前の原発事故の被害者のための復興でないことは確かです。オリンピック開催のために使われる莫大なお金は、被害者を助け、避難者に住宅援助を提供し続けるために使うべきです。ほとんどは土木業者しか潤わない、疑問の多い除染作業をする代わりに、住民、ことに子どもたち、若者たちの健康対策や毎日の生活の安全のための措置にお金を費やすべきです。華やかなばかりで費用の掛かる威信をかけたオリンピックのようなイベントの代わりに、故郷や生業を奪われ、その影響に今も苦しんでいる人々を日本政府は助けるべきです。このような悲劇が二度と起きないようにするために努力をすべきです。そして日本は、原子力を推進する政策を終わりにして、未来のある再生エネルギーの道をとっていくべきです。

フクシマはまだまだ過去のものではありません。それより過去のものとなるべきは原子力の時代でしょう。核分裂が行われる限り、核兵器がこの世にあり、原子力エネルギーで電力が作られる限り、ウランが採掘され濃縮される限り、地球に安全はあり得ません。その代わり恐ろしい放射性廃棄物がますます増えるだけです。核技術は「生命」と共存できません。リスクがあまりに高すぎ、危険が多すぎます。それも、今だけでなく、将来の世代までずっとその危険が続いて残ります。私たちはすでに地球をあまりにも汚してしまいました。この狂気の沙汰こそ過去のものとならなければならないはずで、というのも私たちが欲しいのはただ一つ、子どもや孫たちのために、平和で恐怖のない未来だからです。